

## 学びのデザインシート（授業前）

### 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語】

#### 1. 対象（実施を想定する学校・子供の実態の概要）

本学級の児童は、授業中の発表が活発であり人前で話すことに抵抗がない。そのため、授業中は全児童が一度は発言する機会がある。しかし、自分の考えの根拠がはっきりしなかったり、考えを説明できなかったりする人が多い。

#### 2. 単元名

「美術館の解説委員になろう ～絵から読み取ったことを話そう～」（全6時間）

#### 3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付く。 ○相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話す。
思考力、判断力、表現力等	○相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考える。 ○話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつ。
学びに向かう力、人間性等	○進んで解説内容を整理し、学習の見通しをもって話の中心を明確にして話そうとする。

#### 4. 本時の目標

絵から読み取ったことをペアで紹介し合い、どうすればうまく絵を紹介できるかについて考えを交流することを通して、話の中心を決めて解説文に必要なテキストを選ぶことができる。

#### 5. 授業展開【**本時**・単元】 ※本時または単元（題材）いずれかに○を付けてください。

<b>解決したい課題や問い</b>
どうすれば、二人の考えを一つにできるだろう。

<b>考えるための材料</b>
○絵画
想定される活動
○選択した絵画から見つけたことや想像したこと、絵から受けた印象を紹介し合う。
<b>考えるための材料</b>
○授業支援ソフトロイロノート
想定される活動
○話の中心を解説するために必要なテキストを取捨選択しながら構成を考える。
<b>考えるための材料</b>
○掲示物
想定される活動
○解説文を完成させるための工程を確認する。

<b>対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）</b>
対話の方法 ペア（20分）
対話や思考のプロセス
「ぼくの話の中心は狩人だよ。」「わたしは、雪国の生活だよ。」 「どうしよう、話の中心が違うね。」「二つを混ぜて、雪国の狩人の生活ってのはどう？」 「それじゃあ、その話の中心に必要なテキストを選ぼうか。」 「このテキストは必要だけど、これはいらないね。」「テキストが決まったね。構成を考えようか。」

<b>学習の成果（予想される子供のあらわれ）</b>
「絵から見つけたこと想像したことをテキストにすることで、話の中心になるものがたくさんあることがわかった。」「話の中心が伝わるような解説文にするために必要なテキストだけ残せばいいので、ロイロノートは便利だ。」「テキストを並べ替えば解説文の構成を考えられて、簡単に変更することができるぞ。」「話のまとまりができたから、この前勉強した接続詞でつなげるぞ。」「もっと解説したいな。別の絵もチャレンジしてみよう。」